

正校

正信偈和讃

御文章入  
平かな

全

特 109

298

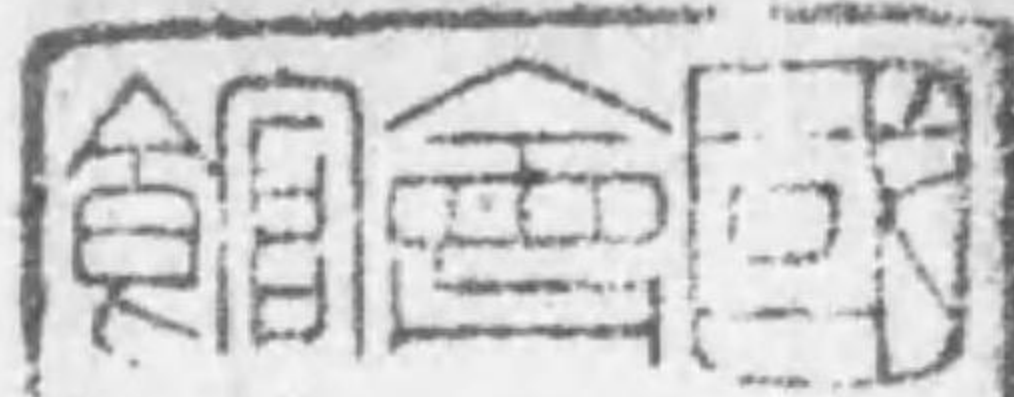


始



特109  
298

在 <small>ざい</small>	法 <small>ほふ</small>	南 <small>な</small>	歸 <small>くわ</small>
世 <small>せ</small>	藏 <small>ざう</small>	無 <small>も</small>	命 <small>みやう</small>
自 <small>じ</small>	菩 <small>ぼ</small>	不 <small>ふ</small>	無 <small>む</small>
在 <small>ざい</small>	薩 <small>さち</small>	可 <small>か</small>	量 <small>りやう</small>
王 <small>わう</small>	因 <small>いん</small>	思 <small>し</small>	壽 <small>じゆ</small>
佛 <small>ぶち</small>	位 <small>ゐ</small>	議 <small>ぎ</small>	如 <small>によ</small>
所 <small>しよ</small>	時 <small>じ</small>	光 <small>くわう</small>	來 <small>らい</small>



京都書肆

風祥堂發行

校正  
正信偈和讚

御文章入

全

51.10.8

1085088

觀と見けん諸しよ佛ぶち淨じやう土と因いん

國こく士と人にん天てん之し善ぜん惡あく

建こん立りふ無む上じやう殊しゆ勝しやう願ぐわん

超てう發ほち希け有う大だい弘く誓ぜい

五ご劫こふ思し惟ゆい之し攝せふ受じゆ

重ちう誓せい名みやう聲しやう聞もん十じふ方はふ

普ふ放ほう無む量りやう無む邊へん光くわう

無む礙げ無む對たい光くわう炎ゑん王わう

清しやう淨じやう歡くわん喜き智ち慧ゑ光くわう

不ふ斷だん難なん思し無む稱しやう光くわう

超てう日にち月ぐわち光くわう照せう塵ちん刹せち

一いち切さい群ぐん生じやう蒙む光くわう照せう

本ほん願ぐわん名みやう號がう正しやう定ぢやう業ごふ

至し心しむ信しむ樂げう願ぐわん爲ゐ因いん

成じやう等とう覺かく證しやう大だい涅ねち槃はん

必ひち至し滅めち度ど願ぐわん成じやう就じゆ

如に來ら所し以い興こ出し世せ

唯ゆい說せち彌み陀だ本ほん願ぐわん海かい

五ご濁ちよく惡あく時じ群ぐん生じやう海かい

應おう信しん如に來ら如に實じち言ごん

能のう發ほち一いち念ねむ喜き愛あい心しむ

不ふ斷だん煩ぼむ惱なう得とく涅ねち槃はん

凡ぼむ聖しやう逆ぎやく謗ほう齊さい廻ゑ入にふ

如に衆しゆ水しゐ入にふ海かい一いち味み

攝せふ取しふ心しむ光くわう常じやう照せう護ご

已い能のう雖すい破は無む明みやう闇あむ

貪とむ愛あい瞋しん憎ぞう之し雲うん霧む

常じやう覆ふ真しん實じち信しん心じむ天てん

譬ひ如によ日にち光くわう覆ふ雲うん霧む

雲うん霧む之し下げ明みやう無む闇あむ

獲ぎやく信しん見けん敬きやう大だい慶きやう喜き

卽そく橫わう超てう截せち五ご惡あく趣しゆ

一いち切さい善ぜん惡あく凡ぼむ夫ふ人にん

聞もん信しん如によ來らい弘く誓ぜい願ぐわん

佛ぶち言ごん廣くわう大たい勝しよう解げ者しや

是ぜ人にん名みやう分ぶん陀だ利り華くゑ

彌み陀だ佛ぶち本ほん願ぐわん念ねむ佛ぶち

邪じゃ見けん憍きやう慢まん惡あく衆しゆ生じやう

信しん樂げう受じゆ持じ甚じん以い難なん

難なん中ちゆう之し難なん無む過くわ斯し

印いん度ど西さい天てん之し論ろん家げ

中ちゆう夏か日じち域いき之し高かう僧そう

顯けん大だい聖しやう興こう世せ正しやう意い

明みやう如によ來らい本ほん誓ぜい應おう機き

釋しや迦か如によ來らい楞りよう伽が山せん

爲ゐ衆しゆ告かう命みやう南なむ天てん竺ちく

龍りゆう樹じゆ大だい士じ出しゆち於お世せ

悉しち能のう摧さい破は有う無む見けん



宣せん說ぜち大だい乘じよう無む上じやう法ほふ

證しやう歡くわん喜き地ち生しやう安あん樂らく

顯けん示じ難なん行ぎやう陸ろく路ろ苦く

信しん樂げう易ゐ行ぎやう水しゐ道だう樂らく

憶おく念ねむ彌み陀だ佛ぶち本ほん願ぐわん

自じ然ねん即そく時じ入にふ必ひち定ちやう

唯ゆい能のう常じやう稱しやう如によ來らい號がう

應おう報ほう大だい悲ひ弘く誓ぜい恩おん

天てん親じん菩ぼ薩さち造ざう論ろん說せち

歸くゐ命みやう無む礙げ光くわう如によ來らい

依ゑ修しゆ多た羅ら顯けん真しん實じち

光くわう闡せん橫わう超てう大だい誓せい願ぐわん

廣くわう由ゆ本ほん願ぐわん力りき廻ゑ向かう

爲ゐ度と羣ぐん生じやう彰しやう一いち心しん

歸くゐ入にふ功く德とく大だい寶ほう海かい

必ひち獲ぎやく入にふ大だい會ゑ衆しゆ數しゆ

得とく 至し 蓮れん 華くゑ 藏ざう 世せ 界かい

即そく 證しょう 真しん 如によ 法ほふ 性しやう 身しん

遊ゆ 煩ぼん 惱なう 林りん 現げん 神じん 通づう

入にふ 生しやう 死じ 園おん 示じ 應おう 化くゑ

本ほん 師し 曇どむ 鸞らん 梁りやう 天てん 子し

常じやう 向かう 鸞らん 處しよ 菩ぼ 薩さち 禮らい

三さむ 藏ざう 流る 支し 授じゆ 淨じやう 教けう

焚ほむ 燒せう 仙せん 經ぎやう 歸くゑ 樂らく 邦ほう

天てん親じん菩ぼ薩さち論ろん註ちう解げ

報ほう土ど因いん果くわ顯けん誓せい願ぐわん

往わう還くゑん廻ゑん向かう由ゆ他た力りき

正しやう定ぢやう之し因いん唯ゆい信しん心じん

惑わく染ぜん凡ぼむ夫ぶ信しん心じん發ほち

證しやう知ち生しやう死じ即そく涅ねち槃はん

必ひち至し無む量りやう光くわう明みやう土ど

諸しよ有う衆しゆ生じやう皆かい普ふ化くゑ

道だう 綽しゃく 決くゑつ 聖しやう 道だう 難なん 證しやう

唯ゆゑ 明みやう 淨じやう 土ど 可か 通つう 入にふ

萬まん 善ぜん 自じ 力りき 貶へん 勤ごん 修しゆ

圓ゑん 滿まん 德とく 號がう 勸くわん 專せん 稱しやう

三さん 不ふ 三さん 信しん 誨くゑ 慳おむ 慚ごむ

像ざう 末まふ 法ほふ 滅めつ 同どう 悲ひ 引いん

一いち 生しやう 造ざう 惡あく 值ち 弘く 誓ぜい

至し 安あん 養やう 界かい 證しやう 妙めう 果くわ

善ぜん導だう獨どく明みやう佛ぶつ正しやう意い

矜こう哀あい定ぢやう散さん與よ逆ぎやく惡あく

光くわう明みやう名みやう號がう顯けん因いん緣ゑん

開かい入にふ本ほん願ぐわん大だい智ち海かい

行ぎやう者じや正しやう受じゆ金こん剛がう心しん

慶きやう喜き一いち念ねん相さう應おう後ご

與よ韋ゐ提だい等とう獲ぎやく三さん忍にん

卽そく證しやう法ほふ性しやう之し常じやう樂らく

源くゑん 信しん 廣くわう 開かい 一いち 代だい 教けう

偏へん 歸くゐ 安あん 養やう 勸くわん 一いち 切さい

專せん 雜ざふ 執しふ 心しむ 判はん 淺せん 深じむ

報ほう 化くゑ 二に 土ど 正しやう 辨べん 立りふ

極ごく 重ちゆう 惡あく 人にん 唯ゆゐ 稱しやう 佛ぶつ

我が 亦やく 在ざい 彼ひ 攝せつ 取しゆ 中ちゆう

煩ぼむ 惱なう 障しやう 眼げん 雖すゐ 不ふ 見けん

大だい 悲ひ 無む 倦けん 常じやう 照せう 我が

本ほん師し源ぐゑん空く明みやう佛ぶち教けう

憐れん愍みん善ぜん惡あく凡ほん夫ぶ人にん

真しん宗しう教けう證しやう興こう片へん州しう

選せん擇ちやく本ほん願ぐわん弘く惡あく世せ

還ぐゑん來らい生しやう死じ輪りん轉てん家げ

決くゑち以い疑ぎ情じやう為ゐ所しよ止し

速そく入にふ寂じやく靜じやう無む為ゐ樂らく

必ひち以い信しん心じむ為ゐ能のう入にふ



唯 <small>ゆい</small>	道 <small>だう</small>	拯 <small>じよう</small>	弘 <small>ぐ</small>
可 <small>か</small>	俗 <small>ぞく</small>	濟 <small>さい</small>	經 <small>ぎやう</small>
信 <small>しん</small>	時 <small>じ</small>	無 <small>む</small>	大 <small>だい</small>
斯 <small>し</small>	衆 <small>しゆ</small>	邊 <small>へん</small>	士 <small>じ</small>
高 <small>かう</small>	共 <small>く</small>	極 <small>ごく</small>	宗 <small>しゆ</small>
僧 <small>そう</small>	同 <small>どう</small>	濁 <small>ちよく</small>	師 <small>し</small>
說 <small>せち</small>	心 <small>しむ</small>	惡 <small>あく</small>	等 <small>とう</small>

初重

南 <small>南</small>	南 <small>南</small>	南 <small>南</small>	南 <small>南</small>
无 <small>无</small>	无 <small>无</small>	无 <small>无</small>	无 <small>无</small>
阿 <small>阿</small>	阿 <small>阿</small>	阿 <small>阿</small>	阿 <small>阿</small>
彌 <small>彌</small>	彌 <small>彌</small>	彌 <small>彌</small>	彌 <small>彌</small>
陀 <small>陀</small>	陀 <small>陀</small>	陀 <small>陀</small>	陀 <small>陀</small>
佛 <small>佛</small>	佛 <small>佛</small>	佛 <small>佛</small>	佛 <small>佛</small>

南ニ无一阿ニ彌一陀ニ佛引

南ニ无一阿ニ彌一陀ニ佛引

彌み陀だ成じやう佛ぶちのこのかたはニ

いニまニに引十じふ劫こうをニへニたニまニへニり

法ほう身しんの引光くわう輪りんきニはニもニなニく

世せの引盲まう冥みやうをニてニらニすニなニり引  
ヨノメシホクヲキモノ

南ニ无一阿ニ彌一陀ニ佛引

南ニ无一阿ニ彌一陀ニ佛引

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>佛<sup>引</sup>

智慧<sup>ちる</sup>の光<sup>くわうみやう</sup>明<sup>みやう</sup>はかりな<sup>し</sup>

有<sup>う</sup>量<sup>りやう</sup>の諸<sup>しよ</sup>相<sup>さう</sup>ことごとく

光<sup>くわう</sup>曉<sup>けふ</sup>かふらぬものはな<sup>し</sup>

眞<sup>しん</sup>實<sup>引</sup>明<sup>みやう</sup>に歸<sup>引</sup>命<sup>みやう</sup>せよ

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>三</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>三</sup>无<sup>一</sup>

阿<sup>一重</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一引</sup>佛<sup>ツ</sup>

南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>一</sup>

南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>三</sup>

南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>佛<sup>三</sup>

南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>三</sup>

南ニ无一阿引

解脱けたちの光輪くわうりんきはもなじ

光觸くわうそくかふるものはみな

有う无むをはなるとのへたまふ

平びやう等とう覺かくに歸くわい命みやうせよ

南ニ无一阿ニ彌一陀一佛フ

南ニ无一阿ニ彌一陀一佛フ

南ニ无一阿ニ彌一陀一佛フ

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>ニ</sup>

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>引</sup>

光<sup>くわう</sup>雲<sup>うん</sup>无<sup>む</sup>碍<sup>け</sup>如<sup>によ</sup>虚<sup>こ</sup>空<sup>くこ</sup>

ヒカリクモノゴトクシテサハリナキコトコクノゴトシ

あちさい一切<sup>いっせつ</sup>の有<sup>う</sup>碍<sup>け</sup>に<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>はり<sup>ナ</sup>し  
ヨロヅノサハリアルコト

光<sup>くわう</sup>澤<sup>たく</sup>か<sup>ハ</sup>ふ<sup>ラ</sup>ぬ<sup>モ</sup>の<sup>ノ</sup>ぞ<sup>ナ</sup>き

難<sup>なん</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>を<sup>ヲ</sup>歸<sup>くわ</sup>命<sup>みやう</sup>せ<sup>セ</sup>よ

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>ハ</sup>

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>ニ</sup>

南<sup>二</sup>无阿<sup>一</sup>彌<sup>二</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>二重</sup>无阿<sup>一</sup>彌<sup>二</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>一</sup>无阿<sup>二</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>二</sup>无阿<sup>一</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>一</sup>无阿<sup>二</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>二</sup>无阿<sup>一</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>佛<sup>引</sup>

南<sup>一</sup>无阿<sup>二</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>佛<sup>引</sup>

清<sup>しやうじやうくわうみやう</sup>淨<sup>じやうじやうくわうみやう</sup>光明<sup>くわうみやう</sup>ならひなほし





佛ふち

光くわう

照せう

曜えう

最さい

第たい

一いち

光くわう炎えん

王わう

佛ふち

と

な

つ

け

た

り

三さん塗つ

の

黒こく

闇あむ

ひ

ら

く

な

り

大たい應おう

供く

を

引引

歸くわい

命みやう

せ

よ

願ク以ク此ク功ク德ク

平ニ等ニ施一一ニ切ニ

同ニ發ニ菩ニ提ニ心一

往ニ生ニ安ニ樂ニ國ニ

○世尊我一心

歸命盡十方

無碍光如來

願生安樂國

○彌陀の名號となへつゝ

信心まことにとらるひとは

憶念の心つねにして

佛恩報ずるおもひあり

誓願不思議をうたがひて

御名を稱する往生は

宮殿のうちに五百歳

むなしくすむむむむむむむむむ

○道光明朗超絶せり

清淨光佛とまふすなり

ひとたび光照かふるもの

業垢をのぞき解脱をう

慈光じくわうはるかにかふらしめ

ひかりのいたるところには

法喜ほふきをうとぞそのべたまふ  
ミノリヲヨロコブナリ

大安慰だいにあんゐを歸命くゐみやうせよ

無明むみやうの闇あんを破はするゆへ

ヤミニテクラシ ヤブルナリ

智ち慧ゑ光くわう佛ぶつとなつけたり

一切いっさい諸しよ佛ぶつ三さん乘じやう衆しゆ

ともにも嘆たん譽よしたまへり

ホメ ホムルナリ

光明くわうみやうてらしてたへざれば

不ふ斷だん光くわう佛ぶつとなつけたり

聞もん光くわう力りきのゆへなれば

心しん不ふ斷だんにて往生わうじやうす

佛ぶつ光くわう測量そくりやうなきゆへに

難なん思し光くわう佛ぶつとなつけたり

諸しよ佛ぶつは往生わうじやう嘆たんじつ々

彌み陀だの功く徳とくを稱しょうせしむ

しんくわうりさう  
神光の離相をとかさざれば  
ムゲクワウブチノオンカタチライヒヒラクコトナシトナリ

へ引へこ  
無稱光佛となつけたり

いんくわうじやうふち  
因光成佛のひかりをば  
ヒカリキハナカラントチカヒ玉ヒテムゲクワウブチトナリテオハシマストシルベシ

しよぶち  
諸佛の嘆ずるところなり  
ホメタマフナリ

くわうみやうつきひ  
光明 月日に勝過して  
しよくわ  
スグレタルナリ

てう  
超 日月光となづけたり

しんや  
釋迦 嘆じてなをつきず  
ホメタマフナリ

むい  
無 等 等 を 歸 命 せよ

彌陀初會の聖衆は  
ミダノフチニナリタマヒシトキアツマリタマヒシヤウシエノオホキコトナリ

算數のをよぶことぞなき  
サミシユ

淨土をぬがはんひとほみな  
ジヤウト

廣大會を歸命せよ  
クワウタイ

安樂無量の大菩薩  
アンラクムリヤウダイボクサ

一生補處にいたるなり  
カチシヤウフシヨ

普賢の徳に歸してこそ  
フケントククカ  
ダイジダイヒラマフスナリ

穢國にかならず化するなれ  
ケクニク

十方衆生のためにとて

如來にょらいの引法藏ほふざうあつめてそ

本願ほんぐん弘誓くわんげいに歸くわんせしむる

大心だいしん海かいを歸命くわんみやうせよ

觀音くわんおん勢せい至しもろよもに

慈光じくわう世界せかいを照曜せうえうし

有緣うゑんを度どしてしばらくも

休息くそくあることなかりけり

ヤスムコトナシトナリ



安樂淨土あんらくじやうどにいたるひや

五濁ごちよく惡世あくせにかへりては

釋迦牟尼佛しやかむにぶちのごとくにて

利益衆生りやくしゆじやうはきはもなし

○神力自在しんりきじざいなることは

測量しきりやうすべきことぞなき  
ハカリハカルコトナシトナリ

不思議ふしぎの徳とくをあつめたり

無上尊むじやうそんを歸命くゐみやうせよ

安あん樂らく聲しやう聞もん菩ぼ薩さち衆しゆ

人にん天てん智ち慧ゑほがらかに

身しん相さう莊しやう嚴ごんみなをなと

他た方ほうに順じゆんして名なをつらぬ  
シタガヒテニンアリテンアイトイフ

顔けん容よう端たん政しやうたぐひなと

精しやう微み妙めう軀く非ひ人にん天てん  
タヘナルミナリニンニテフステンニアラズ

虚こ無む之し身しん無む極こく體たい  
ホフシンニヨライナリ

平びやう等とう力りきを歸くわい命みやうせよ

安あん樂らく國こくをぬがふひと

正しやう定ぢやう聚しゆにこそ住ぢゆすなれ

邪じや定ぢやう不ふ定ぢやう聚しゆくになし

諸しよ佛ぶつ讚さん嘆たんしたまへり

十じふ方ほう諸しよ有うの衆しゆ生じやうは

阿わあ彌み陀だ至し德とくの御み名なをき

眞しん實じち信しん心しんいたりなば

おほきに所しよ聞もんを慶きやう喜ぎせん

シンズルコトヲエテヨロコブナリ

にやくふしやうじや  
**若**不生者のちかひゆへ  
モシムマレズバトチカヒタマヘルナリ

信しん樂けうまことにとときいたり

一いち念ねん慶ぎやう喜きするひとは

シンヲエテノチヨロコブトナリ

往むう生じやうかならずさだまらぬ

○安あん樂らく佛ぶつ土どの依よ正しやうは

法ほふ藏ざう願げん力りきのなせるなり

天てん上じやう天てん下げにたぐひなし

大だい心しん力りきを歸くわ命みやうせよ

安あん樂らく國こく土どの莊嚴しやうごむは

釋しや迦か無む碍げのみことにて

わむもつむごむのぶたまふ

無む稱しょう佛ぶつを引歸くわ命みやうせよ

已い今こむ當たうの往わう生じやうは  
クワゴニムマルコムジャウニムマルミライニムマルノナリ

この土との衆生しゆじやうのみならず

十じふ方ばう佛ぶつ土どよりきたる

無む量りやう無む數しゆ不ふ可か計けなり  
カゾフベカラズトナリ

阿彌陀佛の御名をきく

歡喜讚仰せしむれば

功德の寶を具足して

一念大利益無上なり

たとひ大千世界に

みてらん火をもすぎゆきて

佛の御名をきくひと

ながく不退にかなふなり

神力無極の阿彌陀は

無量の諸佛ほめたまふ

東方恆沙の佛國より

無数の菩薩ゆきたまふ

○五十六億七千萬

彌勒菩薩はとくをへん

まことの信心うるひとは

このたびさやりをひらくふし

念ねむ佛ぶつち往生わうじやうの願ぐわんにより

等とう正しやう覺かくにいたるひと

すなはち彌勒みろくにおなじくして

大だい般はん涅槃ねはんをさとるべし

眞しん實じち信心しんじむうるゆへに

すなはち定聚ぢやうしゆにいりぬれば

補處ふじよの彌勒みろくにおなじくして

無む上じやう覺かくをさとるなり



像ざう法ほうのどきの智ち人にんも

自じ力りきの諸しよ教けうをさしをきて

時じ機き相さう應おうの法ほうなれば

念ねん佛ぶつ門もんにぞいりたまふ

彌み陀だの尊そん號がうとなへつゝ

信しん樂げうまこととにうるひやは

憶おく念ねんの心しんつねにして

佛ぶつ恩おん報ほうずるおもひあり

五ご濁ちよく惡あく世せの有う情じやうの

選せん擇ちやく本ほん願ぐわん信しんずれば

不ふ可か稱しょう不ふ可か説せち不ふ可か思し議ぎの

功く徳とくは行ぎやう者じやの身みにみてり

もろくの雜ざう行ぎやう雜ざう修しゆ自じ力りきのこゝろ  
をふりすて、一いち心しんに阿あ彌み陀だ如に來よ我らわれ  
等らが今こん度どの一いち大だい事じの御ご生しやう御おんたすけ  
さふらへとたのみまうしてさふら  
ふたのむ一いち念ねんのとき往わう生じやう一いち定ぢやう御おん  
たすけ治ち定ぢやうとぞんじこのうへの稱しやう  
名みやうは御ご恩おん報ほう謝しやとぞんじよろこびま

うし候さふらふ。この御おんこととはりちやうもん聽聞まら  
 しわけさふらう事ことごかいさむしやうにんごしゆつ御開山聖人御出  
 世せの御恩次第相承の善知識せんちしきのあさ  
 からざる御勸化ごくわんくえの御恩ごおんとありがた  
 くぞんじ候さふらふ。このうへはさだめお  
 かせらるゝ御おんおきて一期いちごをかぎり  
 まもりまらすべく候さふらふ。

太子七高僧并御代々御忌日

聖德皇太子 推古天皇二十九年二月廿二日

龍樹菩薩 十月十八日 天親菩薩 三月三日

曇鸞和尚 五月廿六日 道綽禪師 四月廿七日

善導大師 三月廿七日 源信和尚 六月十日

源空上人 建曆二年正月二十五日

親鸞聖人 弘長二壬戌年十一月廿八日御入滅滿九十歳

二如信上人 正安二年正月四日 三覺如上人 觀應二年正月十九日

四善如上人 康暦元年二月廿九日 五綽如上人 明徳四年四月廿四日

六巧如上人 永享十二年十月廿四日 七存如上人 貞祿元年六月十八日

八蓮如上人	明應八年三月廿五日	九實如上人	大永五年二月二日
十證如上人	天文廿三年八月廿三日	十一顯如上人	文祿元年十二月廿四日
准如上人	寬永七年十一月卅日	東教如上人	慶長十九年十月五日
良如上人	寬文二年九月七日	宣如上人	萬治元年七月廿五日
寂如上人	享保十年七月八日	琢如上人	寬文十一年四月廿日
住如上人	元文四年八月六日	常如上人	元祿七年五月廿二日
湛如上人	寬保元年六月八日	一如上人	天祿十三年四月廿三日
法如上人	寬政元年十月廿四日	眞如上人	延享元年十月二日
文如上人	寬政十年六月十四日	從如上人	寶曆十年七月十一日
本如上人	文政九年十二月十日	乘如上人	寬政四年二月廿二日
廣如上人	明治四年八月十九日	達如上人	慶應元年十一月四日
明如上人	明治廿六年一月十六日	嚴如上人	明治廿七年一月五日

帖外九首和讃

○四十八願成就して

正覺しやうかくの彌陀みだとなりたまふ

たのみをかけしひとほみな

往生わうじやうかならずさだまりぬ

極ごく樂らく無む爲ゐの報ほう士とには

雜行ざうぎやうむまるゝことかたし

如來にょらい要法ようぼうをえらんでは

專修せんじゆの行ぎやうをおしゝしむ

兆てう載さい永ゑい劫こうの修しゆ行ぎやうは

阿彌陀わあみだの三字さんじにおさまれり

五ご劫こう思し惟ゆゐのみやう名がう號がうは

五濁ごちよくのあれらに付屬ふぞくせり

阿彌陀如來の三業は

念佛行者の三業と

彼此金剛の心なれば

定聚ぢやうしゆのくらゐにさだまりぬ

多聞淨戒たもんじやうかいえらばれず

破戒罪業はかいざいごふさらはれず

たゞよく念ねむずるひとのみぞ

瓦礫ぐわりやくも金と變へんじける

金こむ剛がう堅けん固この信しん心じんは

佛ほとけの相さう續ぞくよりおこる

他た力りきの方ほう便べんかくしては

いかでか決く定ちやう心しんをえん

大だい願ぐわん海かいのうちには

煩ぼん惱なふのなみこそなかりけれ

弘く誓せいのふねにのりぬれば

大だい悲ひの風かせにまかせたり

超世てうせの悲願ひぐわんきよしより

われらは生死しやうしの凡夫ぼむぶかは

有漏うろうの穢身えいしんはかはらぬぞ

こゝろは淨土じやうとにあそぶなり

六八ろくはちの弘誓ぐせいのそのなかに

第三だいさん十五じふごの願ぐわんに

彌陀みだはことに女人にょにんを

引接いんせふせんとちかひしか



○末代まくだい无智むちの在家ざいけ止住しぢゆの男女なんによたらん

ともがらはこゝろをひとつにして

阿彌陀佛わあみだぶちをふかくたのみまいらせ

てさらに餘よのかたへこゝろをふら

ず一心いちしん一向いっかうに佛ぶちたすけたまへとま

らさん衆生しゆじやうをばたとび罪業ざいごふは深重じんぢゆう

なりともかならず彌陀如來はすく  
ひましますべしこれすなはち第十  
八の念佛往生の誓願のこゝろなり  
かくのごやく決定してのうへに  
はねてもさめてもいのちのあらん  
かぎりは稱名念佛すべきものな  
りあなかしこく

○それ八萬の法藏をしるやいふとも  
後生をしらざる人を愚者とすたと  
ひ一文不知の尼入道なりといふや  
も後生をしるを智者とすといふり

しかれば當流たうりうのこゝろはあながち  
にもろくしやうけうの聖教をよみものをし  
りたりといふやも一念いちねんの信心しんじんのい  
はれをしらざる人ひとはいたづら事ことな  
りとしるべしされば聖人しやうにんの御おんこと  
ばにも一切いちせきの男女なんによたらん身みは彌陀みだ

の本願ほんぐわんを信しんぜずしてはふつとたす  
かるといふ事ことあるべからずとおほ  
せられたりこのゆへにいかなる女にょ  
人にんなりといふやももろくしやうけうの雜行ざうぎやう  
をすて、一念いちねんに彌陀みだ如來にょらい今度こんどの後ご  
生しやうたすけたまへとふかくたのみ申まう

さん人ひとは十人じふにんも百人ひやくにんもみなよもに  
彌陀みだの報土ほうどに往生わうじやうすべき事ことならさ  
らうたがひあるべがらざるものな  
りあなかしこく

○夫それざいけ在家あまにようばうの尼女房あまにようばうたらん身みはなにの

やうもなく一心わちしむわちかう一向わあみだぶちに阿彌陀佛あみだぶつを  
ふかくたのみまいらせて後生ごしやうたす  
けたまへとまらさんひとばみなみ  
な御おんたすけあるべしとおもひやり  
てさららうたがひのこゝろゆめゆ  
めあるべからずこれすなはち彌陀みだ

四  
如來にょらいの御おむちかひの他た力りき本願ほんぐわんとはま  
うすなりこのうへにはなをごしやう後生の  
たすからんことごのうれしさありが  
たさをおもはゞたゞ南无阿彌陀佛なもわあみだぶち  
くゞやとなふべきものなりあなか  
しこく

○抑そも男子なんしも女人にょにんも罪つみのふかゝらん  
ともがらは諸佛しよぶちの悲願ひぐわんをたのみて  
もいまの時分じぶんは末代まつだい惡世あくせなれば諸しよ  
佛ぶちの御おんちからにては中々なかかなはざ  
る時ときなりこれによりて阿彌陀如來わあみだにょらい  
と申まう奉したるは諸佛しよぶちすぐれて十惡五じふあくご

逆さやくの罪人ざいにんを我われたすけんといふ大願だいぐわん  
 をおこしましくして阿彌陀佛わあみだぶちとな  
 り給たまへりこの佛ぶちをふかくたのみて  
 一念御おんたすけ候さふらへと申まうさん衆生しゆじやうを  
 我われたすけずば正覺しやうがくならじとちかひ  
 まします彌陀みだなれば我等われらが極樂ごくらくに

往生わうじやうせんことは更さらにうたがひなし  
 このゆへに一心おちしむ一向おちかうに阿彌陀如來わあみだによらい  
 たすけ給たまへとふかく心こころにうたがひ  
 なく信しんじて我身わがみの罪つみのふかき事ことを  
 ばらちすて佛ほとけにまかせまいらせて  
 一念おちねむの信心しんじむさだまらん輩ともがらは十人じふにんは

十人じふにんながら百人ひやくにんは百人ひやくにんながらみな  
浄土じやうとに往生むうじやうすべき事ことさらにはうたが  
ひなしこのうへにはなをくたふ  
とくおもひたてまつらんころの  
をころん時ときは南无阿彌陀佛なもわあみだぶちくと  
時ときをもいはずところをもきらはず

念佛ねむぶち申まうすべしこれをすなはち佛恩報ぶちおんほう  
謝しやの念佛ねむぶちと申まうすなりあなかしこく

○信心しんじむぎやくとく獲得かくとくすといふは第十八だいじふはちの願ぐわんを  
こゝろうるなりこの願ぐわんをこゝろら  
るといふは南无阿彌陀佛なもわあみだぶちのすがた

をこゝろうるなりこのゆへに南无なむ  
くわみやうと歸命する一念の處あちねむに發願廻向ところの  
こゝろあるべしこれすなはち彌陀みだ  
如來にょらいの凡夫ぼむぶに廻向ゑんかうしますことゝ  
ろなりこれを大經だいぎやうには令諸衆生りやうしよしゆじやう  
功德成就くふくじやうじゆとせけりされば无始已來むしいらい

つくりとつくる惡業煩惱あくごふぼむなうをのこる  
ところもなく願力不思議ぐわんりきふしぎをもて消せう  
滅めちするいはれあるがゆへに正定しやうちやう  
聚不退じゆふたいのくらゐに住すぢゆとなりこれ  
によりて煩惱ぼむなうを斷だんぜずして涅槃ねはんを  
うとといへるはこのこゝろなり此義このぎ



は當流たうりう一途いちとの所談しよだんなるものなり他た  
流りうの人ひとに對たいしてかくのごとく沙汰さた  
あるべからざる所ところなり能々よくよくこゝろ  
うべきものなりあなかしこく

一念いちねんに彌陀みだをたのみたてまつる

行者ぎやうじやには无上むじやうだいり大利たいりの功德くどくをあた  
へたまふこゝろを和讃わさんに聖人しやうにんの  
いはく

五濁ごちよくあくせ惡世うじやうの有情せんじやくほんぐわんしんの選擇せんじやく本願ほんぐわん信しんず  
れば不可ふか稱しょう不可ふか說せち不可ふか思議しぎの功德くどく  
は行者ぎやうじやの身みにみてりこの和讃わさんの心こころ

は五濁惡世ごぢよくあくせの衆生しゆじやうといふは一切我あちさいわれ

等ら女人惡人にょにんあくにんの事ことなりさればかゝる

あさましきあちしやうさうあく一生造惡ぼむぶの凡夫ぼむぶなれど

も彌陀如來みだにょらいを一心あちしむあちかう一向あちしむあちかうにたのみま

いらせて後生ごしやうたすけ給たまへとまらうさ

んものをばかならずすすくひましま

すべきこととさらに疑うたがふべからずかや

らに彌陀みだをたのみまらすすものには

不可稱ふかしようふ不可說かせちふ不可思議かしぎの大功德だいくどくを

あたへましますなり不可稱ふかしようふ不可說かせち

不可思議ふかしぎの功德くどくといふこととはかず

かぎりもなき大功德だいくどくのこととなりこ

の大功德だいくどくを一念いちねんに彌陀みだをたのみま  
らす我等衆生われらしゆじやうに廻向えがふしましますゆ  
へに過去未來現在くわこみらいげんざいの三世さんぜの業障ごふしやうあち一  
時じにつみきえて正定聚しやうちやうじゆのくらゐ  
また等正覺とうしやうがくのくらゐなんどにさだ  
まるものなりこのころをまた和

讚さんにいはいはく彌陀みだの本願信ほんぐわんしんずべし本  
願信ぐわんしんずるひとほみな攝取不捨せふしゆふしやの利  
益やくゆへ等正覺とうしやうがくにいたるなりといへ  
り攝取不捨せふしゆふしやといふはこれみちねむも一念に  
彌陀みだをたのみたてまつる衆生しゆじやうくわうを光  
明みやうのなかにおさめとりて信しんずるこ

ろだにもかはらぬばすてたまは  
ずやいふこゝろなりこのほかにい  
ろくの法門ほふもんどもありやいづども  
たゞ一念おちねむに彌陀みだをたのむ衆生しゆじやうはみ  
なこどぐく報土ほうどに往生わうじやうすべきこ  
とゆめくうたがふこゝろあるべ

からざるものなりあなかしこく

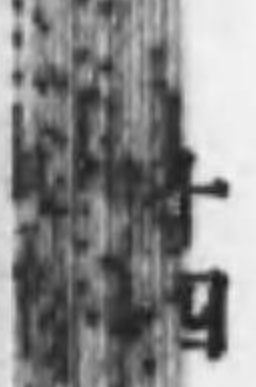
○夫女人それによにんの身みは五障ごしやう三従さんじゆとておと  
こにまさりてかゝるふかきつみの  
あるなりこのゆへに一切おちさいの女人によにんを  
ば十方じふぱうにまします諸佛しよぶつもあがちか

らにては女人にょにんをばほとけになした  
 まふことさらになし志かるに阿彌わあみ  
 陀だ如來にょらいこそ女人にょにんをばわれひとりた  
 すけんといふ大願たいぐわんをおこしてすく  
 ひたまふなりこのほとけをたのま  
 ずば女人にょにんの身みのほとけになるやい

ふことあるべからざるなりこれに  
 よりてなにとこゝろをももちまた  
 なにと阿彌陀わあみだほとけをたのみまい  
 らせてほとけになるべきぞなれば  
 なにのやりもいらすたゞふたごゝ  
 ろなく一向わちかうに阿彌陀佛わあみだぶちばかりをた

のみまいらせて後生ごしやうたすけたまへ  
 やおもふこゝろひやつにてやすく  
 ほやけになるべきなりこのこゝろ  
 のつゆちりほどもうたがひなけれ  
 ばかならずく極樂ごくらくへまいりてう  
 しくおほほやぢやはなるべきおなほら

さてこのらくにこゝろらぶきやう  
 はやきぐねむぶち念佛をまうしてかゝる  
 あたましきわれらをやすくたすけ  
 まします阿彌陀わあみだ如來にょらいの御恩ごおんの御おんら  
 れしさありがたさを報ほうぜんために  
 念佛ねむぶちまらすべきばかりなりやこゝ



ろらべきものなりあなかしこく

○それ五劫思惟の本願といふも兆載ごごふしゆいほんぐわんてうさい

永劫の修行といふもたゞ我等一切みやうこふしゆぎやうわれらみちさい

衆生をあながちにたすけ給はんがしゆじやうたま

ための方便に阿彌陀如來御辛勞あほうべんわあみだにょらいごしんらう

りて南无阿彌陀佛といふ本願をたなもわあみだぶちほんぐわん

てましくてまよひの衆生の一念しゆじやうみちねむ

に阿彌陀佛をたのみまいらせてもわあみだぶち

ろくの雑行をすて、一向一心にみちかうみちしむ

彌陀をたのまん衆生をたすけずんみだしゆじやう

ばあれ正覺ならじとちかひ給ひてしやうがくたま

南な无も阿わ彌あ陀み佛だとぶなりちましますこれ

すなはち我われ等らがやすく極ごく樂らくに往生じやう

すべきいはれなりとしるべしされ

ば南无も阿わ彌あ陀み佛だの六字ろくじのこゝろは

一ち切さい衆しゆ生じやうの報土ほうどに往生わうじやうすべきす

がたなりこのゆへに南无なと歸命くわみやうす

ればやがて阿彌わあ陀み佛だの我等われをたす

けたまへるこゝろなりこのゆへに

南な无もの二字にじは衆生しゆじやうの彌陀みだ如に來よらいにむ

かひたてまつりて後ご生しやうたすけたま

へとまらすこゝろなるべしかやら

に彌陀みだをたのむ人ひとをもらさずすく



ひたまふこゝろこそ阿彌陀佛わあみだぶちの四  
 字じのこゝろにてありけりとおもふ  
 べきものなりこれによりていかな  
 る十惡じふあく五逆ごぎやく五障ごしょう三從さんじゆうの女人にょにんなり  
 とももろくの雜行ざうぎやうをすて、ひた  
 すら後生ごしやうたすけたまへとまらさん

人ひとをばたとへば十人じふにんもあれ百人ひやくにんも  
 あれみなことごとくもらさずたす  
 けたまふべしこのおもむきをうた  
 がひなく信しんぜんともがら輩しんじちは實眞みだの彌陀だの  
 淨土じやうどに往生わうじやうすべきものなりあなか  
 しこく

○當流たうりうの安心あんしむの一義いちぎといふはたゝ南な

无阿彌陀佛もわあみだぶちの六字ろくじのこゝろなりた

とへば南无なもと歸命くわみやうすればやがて阿わあ

彌陀佛みだぶちのたすけたまへることゝろな

るがゆへに南无なもの二字にじは歸命くわみやうのこ

ゝろなり歸命くわみやうといふは衆生しゆじやうのも

ろくの雜行ざうぎやうをすてて阿彌陀佛わあみだぶち後

生しやうたすけたまへと一向いちかうにたのみた

てまつることゝろなるべしこのゆへ

に衆生しゆじやうをもらさず彌陀みだ如來にょらいのよく

しろしめしてたすけましますことゝ

ろなりこれによりて南无なもとたのむ

衆生しゆじやうを阿彌陀佛わあみだぶちのたすけまします  
 道理だうりなるがゆへに南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの  
 六字ろくじのすがたはすなはちあれら一いち  
 切衆生さいしゆじやうの平等びやうどうにたすかりつるす  
 がたなりとしらるゝなりされば他た  
 力りきの信心しんじむをうるるといふもこれしか

しなから南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの六字ろくじのこ  
 ゝろなりこのゆへに一切いちさいの聖教しやうけうと  
 いふもたゞ南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの六字ろくじを  
 信しんぜしめんがためなりといふこゝ  
 ろなりとおもふべきものなりあな  
 かしく

○聖しやうにんむちりう人一流ごくわんくゑの御勸化ごくわんくゑのをもむきは  
信心しんじむをもて本ほんとせられ候さふらふそのゆへ  
はもろくの雑行ざつぎやうをなげすて、一いち  
心しむに彌陀みだに歸命くわみやうすれば不可思議ふかしぎの  
願力ぐわんりきとして佛ぶつのかたより往生わうじやうは治ち  
定ぢやうせしめたまふそのくらゐを一念いちねん

發起ほちき入正定にふしやうぢやうしじゆ之聚しじゆとも釋しやくしそのら  
への稱しやう名みやう念佛ねむぶつは如來にょらいあが往生わうじやうを  
さだめたまひし御恩報盡ごおんほうじんの念佛ねむぶつと  
こゝろらうべきなりあなかこしく

○抑そまへこの御正忌ごしやうぎのらちに參詣さんけいをい

たしこゝろざしをはこび報恩謝徳ほうおんしゃとく  
をなさんとおもひて聖人の御まへしやうにん おん  
にまいらんひとのなかにをいて信しん  
心を獲得せしめたるひともあるべじむ ぎやくとく  
しまた不信心のともがらもあるべふしんじむ  
しもてのほかの大事なりそのゆへだいじ

は信心を決定せずば今度の報士しんじむ くるちぢやう こむど ほうと  
の往生は不定なりされば不信のひわうじやう ふぢやう ふしん  
ともすみやかに決定のこゝろをくゑんちぢやう  
とるべし人間は不定のさかひなりにんげん ふぢやう  
極樂は常住の國なりされば不定のごくらく じやうぢやう くに ふぢやう  
人間にあらんよりも常住の極樂をにんげん じやうぢやう ごくらく

ねがふべきものなりされば當流たうりうに  
は信心しんじむのかたをもてさきとせられ  
たるそのゆへをよくしらずばいた  
づらごととなりいそぎて安心あんじむくろちぢやう決定  
して淨土じやうどの往生わうじやうをねがふべきなり  
それ人間にんげんに流布るふしてみな人ひとのこと

ろえたるとをりはなにの分別ぶんべちもな  
くくちにたゞ稱名しょうみやうばかりをとな  
へたらば極樂ごくらくに往生わうじやうすべきやうに  
おもへりそれはおほきにおぼつか  
なき次第しだいなり他力たうりきの信心しんじむをとると  
いふも別べちのことにはあらず南无阿なもわあ

彌陀佛みだぶちむつの六むつの字じのこゝろをよくし

りたるをもて信心しんじむくろちちやう決定すやはい

ふなりそもく信心しんじむの躰たいといふは

經きやうにいきやうはく聞もん其名ごみやう號がう信心しんじむくわん歡喜まと

いへり善導ぜんだうのいぜんはく南无なむといふは

歸命くわみやうまたこれ發願ほらぐわん廻向かうの義ぎなり

阿彌陀佛わあみだぶちといふはすなはちその行ぎやう

といへり南无なむといふ二字にじのこゝろ

はもろくの雜行じふぎやうをすてゝうたが

ひなく一心いちしん一向いかうに阿彌陀佛わあみだぶちをたの

みたてまつるこゝろなりさて阿彌わあみ

陀佛だぶちといふ四よつの字じのこゝろは一心いちしん

に彌陀みだを歸命くわみやうする衆生しゆじやうをやうも

なくたすけたまへるいはれがすな

はち阿彌陀佛わあみだぶちの四よつの字じのこゝろな

りされば南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの躰たいをか

のごとくこゝろえあけたるを信心しんじむ

をぞるやはいふなりこれすなはち

他方たうの信心しんじむをよくこゝろえたる念ねん

佛ぶつの行者ぎやうとはまうすなりあなかし

こあなかしこ

○當流たうりうの安心あんじむのおもむきをくはしく

しらんとおもはんひとあながち



に智慧才覺ちゑさいかくもいらずたゞわが身みは  
 つみふかきあたましきものなりや  
 おもひとりてかゝる機かまでもたす  
 けたまへるほやけは阿彌陀わあみだ如來だによらいば  
 かりなりやとりてなにのやうもな  
 くひとすぢにこの阿彌陀わあみだほやけの

御袖おんそでにひとすぢがらまいらするお  
 もひをなして後生ごしやうたすけたまへと  
 たのみまらせばこの阿彌陀わあみだ如來だによらいは  
 ふかくよろこびましくしてその御おん  
 身みより八萬四千はちまんしせんのおほきなる光明くわうみやう  
 をはなちてその光明くわうみやうのなかにてそ

の人ひとをおさめいれてをきたまふべ  
 しさればこのこゝろをきやう經には光くわう  
みやうへんせうじふはうせかいねむぶちしゆじやうせふしゆふしや  
 明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨  
 とはどかれたりやこゝろうべしさ  
 てはあが身みのほとけにならんずる  
 ことばはなにのあづらひもなしあら

しゆしやう殊勝のてうせ超世の本願ほんぐわんやありがたの  
みだ彌陀に如來のくわうみやう光明やこのくわうみやう光明の  
えん縁えんにあひたてまつらばもし无始もしより  
むみやうごふしやうこのかたのむみやうごふしやう无明業障のおそろし  
 きやまひのなほるといふことばはさ  
 らにもてあるべからざるものなり

しかるにこの光明くわうみやうの縁ゑんにもよほ  
されて宿善しゆぜんの機きありて他力信心たうりきしんじむと  
いふことをばいますでにえたりこ  
れしかしながら彌陀如來みだにょらいの御かた  
よりさづけましくたる信心しんじむとは  
やがてあらはにしられたりかるが

ゆへに行者ぎやうじやのをこすところの信心しんじむ  
にあらず彌陀如來みだにょらい他力たうりきの大信心だいしんじむと  
いふことはいまこそあきららかにし  
られたりこれによりてかたじけな  
くもひとたび他力たうりきの信心しんじむをえたら  
ん人ひとはみな彌陀如來みだにょらいの御恩ごおんをおも

ひはかりて佛恩報謝ぶちおんほうしやのためにつね  
に稱名念佛しょうみやうねむぶちをまらうしたてまつる  
べきものなりあなかしこく

○それ南无阿彌陀佛なむあみだぶちとまらうす文字もんじは  
そのかずあづかに六字ろくじなればさの

み功能くのうのあるべきともおぼえざる  
にこの六字ろくじの名號みやうがうのらちには无上むじやう  
甚深じんじんの功德利益くどくりやくの廣大くわうだいなることさ  
らにそのきはまりなきものなりさ  
れば信心しんじむをよとるやいふもこの六字ろくじ  
のらちにこもれりやとるべしとら

に別べちに信心しんじむとて六字ろくじのほかにはあ  
るべからざるものなり

抑そもくこの南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの六字ろくじを善せん

導釋だうしやくしていはく南无なもといふは歸命くわみやう

なりまたこれ發願廻向ほちぐわんゑかうの義ぎなり阿わあ

彌陀佛みだぶちといふはその行ぎやうなりこの義ぎ

をもてのゆへにかならず往生わうじやうする

ことせうといへりしかればこの釋しやく

のこゝろをなにとこゝろらぶきぞ

といふにたとへば我等われらごよきの惡あく

業煩惱ごふぼむなうの身みなりといふとも一念いちねんに

阿彌陀佛わあみだぶちに歸命くわみやうせばかならずその

機きをしろしめしてたすけたまふべ  
 しくわみやうそれ歸命といふはすなはちたす  
 けたまへとまらすこゝろなりされ  
 ばあちねむ一念に彌陀をたのむ衆生しゆじやうに无上むじやう  
 大利だいりの功德くどくをあたへたまふを發願ほちぐわん  
 廻向ゑかうとはまらすなりこの發願ほちぐわん廻向ゑかう

の大善だいぜん大功德だいくどくをあれら衆生しゆじやうにあた  
 へましますゆへに无始むしくわう曠劫こくけつよりこ  
 のかたつくりをきたる悪業あくごふ煩惱ぼんごを  
 ばあち一時いちじに消滅せうめつしたまふゆへにあれ  
 らが煩惱ぼんご悪業あくごふはことごとくくみなき  
 えてすでに正定しやうぢやう聚不退轉ふたいてんなんど

いふくらゐに住すちゆうとはいふなりこ  
のゆへに南无阿彌陀佛なもわあみだぶつの六字ろくじのす  
がたはあれらが極樂ごくらくに往生わうじやうすべき  
すがたをあらはせるなりといよいよ  
よしられたるものなりされば安心あんしむ  
といふも信心しんじんといふもこの名號みやうがうの

六字ろくじのこゝろをよくくこゝろら  
るものを他力たうりきの大信心だいしんじんをえたるひ  
とゝはなづけたりかゝる殊勝しゆしやうの道だう  
理りあるがゆへにふかく信しんじたてま  
つるべきものなりあなかしこく

○夫人間の浮生なる相をつらく観それになんげん ふしやう さう くわん  
ずるにおほよそはかなきものはこ  
の世の始中終まぼろしのごとくなよ しちゆうしゆ  
る一期なりさればいまだ萬歳の人いちご むちご まんざい じん  
身をうけたりやいふ事をきかず一しん こと ちち  
生すぎやすしいまにいたりてたれしやう

か百年の形骸をたもつべきや我ひゃくねん ぎやうたい わ  
やさき人やさきけふやもしらずあひと  
すやもしらずをくれさきだつ人はひと  
もやのこづくすゑの露よりもしげつゆ  
しやいへりされば朝には紅顔ありあした こうがん  
て夕には白骨になれる身なりすゆふ びやくこちち み



にむじやう无常の風かせきたりぬればすなはち

ふたつのまなこたちまちにとぢひ

とつのいきながくたえぬればこうがん紅顔

むなしくへん變じてたうり桃李のよそほひを

うしなひぬるときはろくしんけんぞく六親眷屬あつ

まりてなげきかなしめどもさら更にそ

のかひ甲斐あるべからずさてしもある

べき事ことならぬばとてやぐわい野外におくり

てよ夜半のけふりとはなしはてぬれば

た、はくこち白骨のみぞのこれりあはれと

いふもなか中くおろかなりされば人にん

間げんのはかなき事ことはらうせうふぢやう老少不定のさか

ひなればたれの人もはやく後生のひと  
あちだいじ 一大事を心にかけて阿彌陀佛をふわあみだぶち  
かくたのみまいらせて念佛ねむぶちまうす  
べきものなりあなかこく

大正六年二月十五日印刷  
大正六年二月十五日發行

京都市富小路三條上ル  
福永町八番戸

編輯兼發行  
印刷者

中村淺吉

京都市富小路三條上ル北入

發行所 中村風祥堂

振替大阪(一五八一三)

終